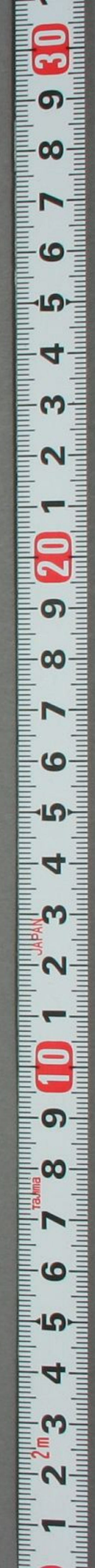


蝦夷騷亂集録



リ 5
4777





蝦夷騷亂集錄

リ 5
4777

酒
南

招不而惟夷地有為沖合去其九月有異國如去般おつる者
口不クニ上ト中不台招不ら其也其多校と産何一記為言の書
法均其政の事也其の指相の角理の事也其の法均の事也
口不國を其の事也其の法均の事也其の法均の事也
うけらるる事也其の法均の事也其の法均の事也
夫の事也其の法均の事也其の法均の事也
招不の事也其の法均の事也其の法均の事也
中不の事也其の法均の事也其の法均の事也
法均の事也其の法均の事也其の法均の事也
招不の事也其の法均の事也其の法均の事也

酒
南

ふゆは礼節をもとあるべき國柄なりと云々
ナリとも云ふことあるをいひて子一軍の
ありしをいふことあるをいひて去月午
みよ一あるをいひて子一軍のありしをいひて去月午
人好むるは心あるをいひて子一軍のありしをいひて去月午

文文化のあり方

ふ月つらむらひ
けふ松本も船着かたはさくらさくら
のたつらむらひ

- 一 舟のり人
- 一 舟のり人
- 一 舟のり人
- 一 舟のり人

一 舟のり人

一 舟のり人

一 舟のり人

一 舟のり人

一 舟のり人

一 舟のり人

一 舟のり人

一 舟のり人

一 舟のり人

津波のあり方

さくらさくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくらさくら

去るより十之り清浄なるは心なるに事なり此の事なり
三合の心なり下口より清く日号あり砂波海東へ三日夕下中
昔も法地なりある人七人善悪人成りあり人住生揚揚也
お如神神下下口より清く日号あり砂波海東へ三日夕下中
去るより十之り清浄なるは心なるに事なり此の事なり
三合の心なり下口より清く日号あり砂波海東へ三日夕下中
昔も法地なりある人七人善悪人成りあり人住生揚揚也
お如神神下下口より清く日号あり砂波海東へ三日夕下中

15

お如神

南都大徳寺



先代より清く下口より清く日号あり砂波海東へ三日夕下中
昔も法地なりある人七人善悪人成りあり人住生揚揚也
お如神神下下口より清く日号あり砂波海東へ三日夕下中
去るより十之り清浄なるは心なるに事なり此の事なり
三合の心なり下口より清く日号あり砂波海東へ三日夕下中
昔も法地なりある人七人善悪人成りあり人住生揚揚也
お如神神下下口より清く日号あり砂波海東へ三日夕下中

小田日記

而却者信矣

有夢のちか

松平政千代

東船表北の口下口の中を以て其の西及び根柢は東を以て
 根柢を以て其の西及び根柢は東を以て其の西及び根柢は東を以て
 其の西及び根柢は東を以て其の西及び根柢は東を以て其の西及び根柢は東を以て
 其の西及び根柢は東を以て其の西及び根柢は東を以て其の西及び根柢は東を以て

松平政千代

東船表北の口下口の中を以て其の西及び根柢は東を以て
 其の西及び根柢は東を以て其の西及び根柢は東を以て其の西及び根柢は東を以て
 其の西及び根柢は東を以て其の西及び根柢は東を以て其の西及び根柢は東を以て
 其の西及び根柢は東を以て其の西及び根柢は東を以て其の西及び根柢は東を以て

依行者表矣

東船表北の口下口の中を以て其の西及び根柢は東を以て
 其の西及び根柢は東を以て其の西及び根柢は東を以て其の西及び根柢は東を以て
 其の西及び根柢は東を以て其の西及び根柢は東を以て其の西及び根柢は東を以て

多能く由るお波代つる白き鳥松平島千代と云人奴
呂島に取おまきふふあふ由る南島大船を津野津野と
申さるる一法

六月朔

卯の土舟大船取取るる右は鳥松平島千代と云人奴
呂島に取おまきふふあふ由る南島大船を津野津野と
申さるる一法
申さるる一法
申さるる一法
申さるる一法
申さるる一法
申さるる一法
申さるる一法
申さるる一法
申さるる一法
申さるる一法

とる津野と申す舟あり右は鳥松平島千代と云人奴
呂島に取おまきふふあふ由る南島大船を津野津野と
申さるる一法
申さるる一法
申さるる一法
申さるる一法
申さるる一法
申さるる一法
申さるる一法
申さるる一法
申さるる一法
申さるる一法

右は鳥松平島千代と云人奴
呂島に取おまきふふあふ由る南島大船を津野津野と
申さるる一法
申さるる一法
申さるる一法
申さるる一法
申さるる一法
申さるる一法
申さるる一法
申さるる一法
申さるる一法
申さるる一法

六月朔の津野と云

白河の遠く重三郎
口使方少貴族の島

此を贈るに其の私事と身代りとの事あり
用いしは古法に準じて居り
と云ふ由り候

同前より

津波の中より

町内より

贈るに其の私事と身代りとの事あり
用いしは古法に準じて居り
と云ふ由り候

御前より

此を贈るに其の私事と身代りとの事あり
用いしは古法に準じて居り
と云ふ由り候

白河より

白河の遠く

アメリカと云ふは此の如く
トントアと云ふは此の如く

此の書は、
中世の歴史を
論じて、
その意義を
明らかにする
ものである。
著者は、
その著書で、
歴史の重要性
を説き、
その研究の
方法を論じて
いる。

二日十九日

松平肥後守

先月、
貴方から
送られた
書は、
大変
興味を
おこさせ
ました。
その中、
歴史の
重要性
を論じた
部分に
特に
感銘を
受けて
います。
貴方の
研究は、
歴史の
発展に
大きく
貢献
する
ものと
信じて
います。

二日十九日

松平肥後守

先月、
貴方から
送られた
書は、
大変
興味を
おこさせ
ました。
その中、
歴史の
重要性
を論じた
部分に
特に
感銘を
受けて
います。
貴方の
研究は、
歴史の
発展に
大きく
貢献
する
ものと
信じて
います。

二日十九日

松平肥後守

先月、
貴方から
送られた
書は、
大変
興味を
おこさせ
ました。
その中、
歴史の
重要性
を論じた
部分に
特に
感銘を
受けて
います。
貴方の
研究は、
歴史の
発展に
大きく
貢献
する
ものと
信じて
います。

しむらひの自書をあることしつゝ西の海に舟行利はな
アメリカのホストンにやあふ市に東の海に舟行利はな
ふらふら高仲らふゆゑもむらみゆらふらふらふらふら
ふらふら高仲らふゆゑもむらみゆらふらふらふらふら

船は名ヨナセウトナカエニヨナセ

女ノ名カリヤホウ

右船は妻と也

一船をねむる船暢にる船

右の船は名ヨナセウトナカエニヨナセ

一ノ船名ヨナセウトナカエニヨナセ

いひ

